

賃貸マンション  
管理のことなら

JSCに  
お任せください!

忙しいオーナー様でも安心!

◆ こんな悩みありませんか? ◆

- Case 1 空室がなかなか決まらない
- Case 2 家賃の滞納で困っている
- Case 3 毎月の管理費や固定経費が高い
- Case 4 現在依頼している管理会社に満足できない

JSCが行う  
3つの強み

管理手数料は家賃の3%

迅速で誠実な対応、こまやかな報告

高い客付け力で空室を作らない

当社の管理手数料は、一般的な相場よりも低い家賃の3%、家賃5万円以下の物件は1室1500円とリーズナブルです。

トラブルに素早く誠実に対応。報告書も毎月お送りします。オーナーの経済的・心理的負担を高める対応や提案は行いません。

中立的公正な独立性の強みを生かし、幅広い入居者情報を入手。集客戦略などの改善まで踏み込み、仲介会社とともに良質な客付けを行います。

対応エリア ▶ 大阪府全域・兵庫県神戸市・西宮市・芦屋市・三宮市・尼崎市・奈良県奈良市・生駒市

医師・会社経営の  
取引オーナー多数!  
オーナー様最優先で  
サポートします!

資料請求

無料相談

無料見積

お気軽にお問い合わせください。

今なら! ご成約特典として  
3カ月管理料無料!

まずは下記までお気軽にご相談ください

お問い合わせは 代表取締役 山部まで

ホームページはこちら

06-4708-3703

株式会社 JSC



受付/9:00~18:00 定休日/土曜・日曜・祝日 メールアドレス/jsc@hop.ocn.ne.jp

大阪市中央区備後町4丁目3番6号アスティナ御堂筋本町3階

# 大阪医科大学 仁泉会ニュース

仁泉会ニュース 第53巻第1号

発行所  
〒569-8686 高槻市大学町 2-7

電話 FAX  
072-682-6166 072-682-6636

発行者 発行部数  
安藤嗣彦 6,200部

URL  
http://www.jinsenkai.net

謹賀新年





学校法人大阪医科薬科大学  
**大阪医科大学**  
 (現・大阪医科薬科大学)

創立 **100** 周年  
 記念事業募金  
 — 病院新本館建築 —



文字通り、ゼロからの出発  
 何も無い更地に、学舎をつくる。重機などを満足に調達できない中、多くの作業工程は学生と職員による「手作り」。その姿は「人間の手を介した医療」の象徴のようにも映ります。



since 1927 OMC History

- 1926 大正15年 大阪高等医学専門学校設立認可願提出
- 1927 昭和 2年 財団法人大阪高等医学専門学校設置認可
- 1929 昭和 4年 大阪高等医学専門学校開校認可(修業年限5年)
- 1930 昭和 5年 大阪高等医学専門学校附属看護婦学校設立認可
- 1935 昭和10年 本館、解剖館、別館、附属病院、臨床講堂竣工
- 1941 昭和16年 三島病院(附属病院)開院
- 1946 昭和21年 本館屋上塔に大時計を設置
- 1948 昭和23年 新講堂と生理学実習室竣工
- 1950 昭和25年 大阪医科大学設置認可(旧制大学)
- 1951 昭和26年 大阪医科大学 予科設置
- 1952 昭和27年 医学部開学認可
- 1956 昭和31年 附属看護婦学校(新制)開校
- 1959 昭和34年 学校法人大阪医科大学認可(組織変更による)
- 1965 昭和40年 学校法人高槻高等学校認可
- 1968 昭和43年 附属看護婦学校(新制度乙種)設置認可
- 1975 昭和50年 大阪医科大学設置認可(新制大学)現在に至る
- 1977 昭和52年 大阪高等医学専門学校廃校
- 1978 昭和53年 学位規程制定認可
- 1979 昭和54年 大阪医科大学大学院医学研究科設置認可
- 1982 昭和57年 大阪医科大学進学課程設置認可
- 1990 平成 2年 京都大学化学研究所跡土地建物と等価交換
- 1994 平成 6年 講義実習棟竣工
- 1997 平成 9年 創立50周年記念式典開催



- 2003 平成15年 別館が国の有形文化財に登録
- 2005 平成17年 大阪医科大学附属看護専門学校新校舎竣工
- 2006 平成18年 病院7号館竣工
- 2007 平成19年 新講義実習棟竣工
- 2009 平成21年 歴史資料館設置
- 2012 平成24年 創立80周年
- 2013 平成25年 大阪医科大学健康科学クリニック開設
- 2014 平成26年 大阪医科大学看護学部設置認可
- 2015 平成27年 大阪医科大学附属看護専門学校閉校
- 2016 平成28年 大阪医科大学大学院看護学研究科設置認可
- 2017 平成29年 学校法人大阪医科大学と学校法人高槻高等学校の法人合併
- 2018 平成30年 大阪医科大学訪問看護ステーション開設
- 2021 令和 3年 大阪医科大学三島南病院開設



2027



ご支援のお願い

大阪医科大学(現・大阪医科薬科大学)は、私立大学として篤志家によって設立され、卒業生のお力添えをいただきながら、維持・運営され、成長してきた歴史があります。皆さまの温かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

要項

- 募金目的** 大学病院新本館建築に係る資金の一部、並びに学生支援体制の充実を図る
- 募金目標額** 10億円
- 募集期間** 2018年10月~2027年3月
- 金額** 個人 1口1万円、法人 1口10万円
- 顕彰** 個人、法人ともに5口以上ご寄付いただいた方は、銘板にご芳名をしるし、末永く顕彰いたします
- 特典** 個人10口以上、法人5口以上ご寄付をいただきました方は、健康科学クリニックの人間ドック(基本コース)1回分の無料受診券を進呈します。

申込方法

<https://www.omp.ac.jp/donation/index.html>



税制上の優遇措置

学校法人大阪医科薬科大学は特定公益増進法人であり、大阪医科薬科大学に対するご寄付は所得税・法人税・相続税の税制上の優遇措置を受けることができます。また一部の自治体では、個人住民税の税額控除の対象となります。

# 目次

新年のご挨拶

- P3 大阪医科大学仁泉会 理事長
- P4 学校法人大阪医科薬科大学 理事長
- P8 大阪医科薬科大学 学長
- P9 東日本支部長
- P9 静岡県支部長
- P10 岐阜県支部長
- P10 京都仁泉会 会長
- P11 仁泉会大阪府支部連合会会長
- P12 港区支部長
- P12 阿倍野区支部長
- P13 住吉住之江区支部長
- P13 高槻市支部長
- P14 松原市支部長
- P15 和歌山県支部長
- P15 神戸支部長
- P16 岡山県支部長
- P16 島根県支部長
- P17 香川県支部長
- P18 愛媛県支部長
- P18 学41期評議員

受章受賞報告

- P19 瑞宝双光章 学校保健功労
- P19 瑞宝双光章 学校保健功労
- P19 厚生労働大臣表彰 介護老人保健施設事業功労者 仁泉ひろば
- P20 「長生き考」
- P21 新聞切抜 黒川晃夫先生(学43期)
- P22 冊子切抜 葛谷雅文先生(学32期)
- P23 冊子切抜 河田了先生(学33期)
- P24 まんが
- 本部だより
- P25 編集後記

- 安藤嗣彦(学20期)
- 植木 實
- 佐野浩一
- 酒谷 薫(学30期)
- 吹田浩之(学36期)
- 小嶋昭次郎(学29期)
- 松本恒司(学26期)
- 霜野良一(学28期)
- 奥村隆司(学31期)
- 福本敏子(学24期)
- 濱崎憲夫(学42期)
- 保田 浩(学31期)
- 松本泰仁(学20期)
- 田伏俊作(学20期)
- 増井裕嗣(学29期)
- 小出尚志(学28期)
- 林 孝乾(学30期)
- 石田達也(学28期)
- 井関亮甫(学23期)
- 藤田一彦(学41期)

- 小笠原 博先生(学13期)
- 柴原 栄先生(学21期)
- 横山光昭先生(学19期)
- 西村 保(学4期)

長崎チャンボン太(学31期)

# 新年の御挨拶

大阪医科大学仁泉会

理事長 安藤嗣彦（学20期）

新年あけましておめでとうございます。

3年にも及んだCOVID-19感染症も最近是新規感染者も大幅に減少し、やっと落ち着いた新年が迎えられようと思っていた矢先、南アフリカよりオミクロン株と言われる新型のコロナウイルスが世界的に流行の兆しをみせ始めました。私達医療従事者にとっては“今年もか”という思いですが、マスク、ワクチン、換気等の従来通りの対策で乗り切るしかありません。

今年の干支は寅です。トラキチの多い関西人には更にヒートアップしたプロ野球シーズンとなる事でしょう。大型新人の佐藤輝明のホームラン王が正夢である事を願うものです。

仁泉会では、コロナ禍により3年間の間ほとんど支部会が開催されず、各学年のクラス会報告もありません。これ程長期間にわたって会が開催されなかった事は記憶にありません。普段は支部会やクラス会の記事で誌面が埋まっていたのですが、報告が皆無の為、仁泉会報の編集業務にも大きな支障となりました。仁泉会理事、支部長並びにクラス評議員の先生には、原稿依頼をお願いいたしましたが、快く引き受けいただき、改めて御礼申し上げます。

因みに、対外的には全国の私立医科大学医学部の同窓会組織で構成される全国私立医科大学同窓会の全国会、西部会も開催されませんでした。

さて、昨年は大阪医科大学と大阪薬科大学の完全統合が実現しました。これに伴い、一般社団法人大阪医科大学仁泉会の名称も一般社団法人大阪医科大学薬科大学仁泉会と変更する予定です。この変更につきましては、今年の総会で了承を得た上で、法務局に名称変更の届を出す予定です。

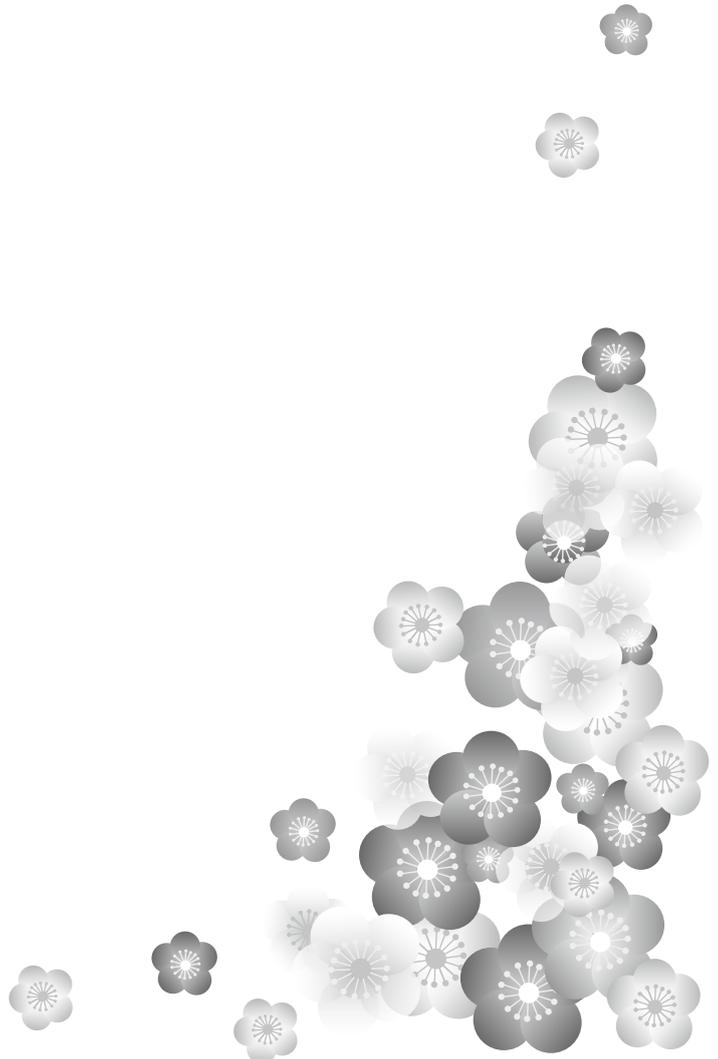
大学統合に伴い、当大学は医学部、看護学部、薬学部の医療系大学となり、キャンパスも大学近辺に集約される計画です。昨年からの入学式は合同で開催されていますが、高槻現代劇場大ホールが満員となる人数で驚嘆しました。



創立100周年事業としての新病院棟の工事も着々と進行し、本年度には、12階の高層A病棟がその全貌を見せる予定となっています。

同窓会活動の原点は、年齢を越えた会員相互の親睦です。この達成には各支部が活発に活動が続ける事が大切です。仁泉会では各支部会の開催時には、母校教授の講師の先生の講演会や仁泉会理事による大学の現状の報告や賛助金による支部会の援助も行っています。また、クラス会開催に関しましては、仁泉会報への予告案内や案内状の発送の業務も行っています。お気軽に仁泉会事務局へお尋ねください。

本年が穏やかな1年であることを願っています。



# 新年のあいさつ — 大学の発展と 高槻市の街づくり —

学校法人大阪医科薬科大学  
理事長 植木 實

明けましておめでとうございます。良い新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。



世界を含め本邦は、約2年間にわたり拡大を繰り返した新型コロナウイルス感染症と、経済や社会生活を犠牲にして闘ってまいりました。ようやく日本は、11月に入ってワクチン接種（ワクチン2回接種率76.4%：2021年11月）の効果もあり、感染者数の減少が見られ、新たな変異株の出現もあり油断はできないものの、経口ワクチンの開発や様々な治療薬の使用、新薬の開発がなされていることは明るい見通しが立ったと思われ、ご同慶の至りです。

扱、本学法人は、ご承知のように昨年4月1日に医大と薬大が統合し、医療系大学として大阪医科薬科大学が誕生しました。医学部・薬学部・看護学部が揃ったことで、単科大学では見えなかった医療科学の総体を捉える環境が整い、教育・研究、そして医療の実装に活かせる状態となり、早速に多職種連携教育（IPE）が始まり、リベラル教育を含め医療マインド教育など3学部による合同講義が進められています。

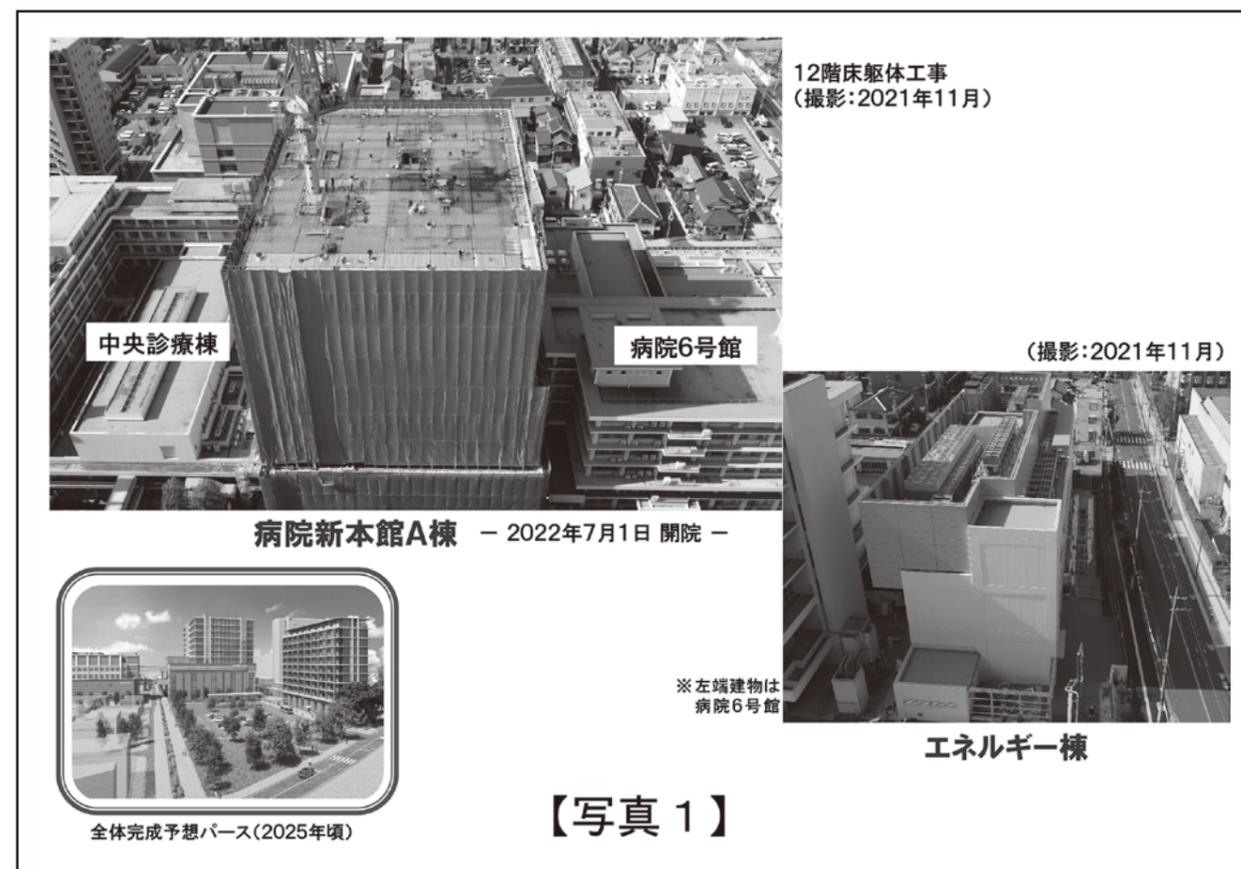
医療教育では、大学病院は3学部における共通の臨床実習の場であり、常に臨床力の向上が求められます。本学法人は、大学病院の全建替を決定し、まず2015年に最新鋭の中央手術棟が完成し、そして本邦に2施設しかない最新のがん治療を行うホウ素中性子捕捉療法（BNCT）施設である関西BNCT共同医療センターが2018年に竣工、両施設はがん治療及び研究面での中心施設になって稼働しています。そして次に、大学病院の中核となる病院新本館A棟の建築が2020年8月から始まって、昨年12月には最上階の12階まで建ち上がって【写真1】、今年1月から内装と重機器の据え付

けが始まり、5月に竣工、7月1日に開院致します。この1階には高槻市等3市1町が運営してきた三島救急医療センターが入り、地域の三次救急を含めた救急医療の中核となります。8月からは新本館B棟の建築に向けた既存建物の解体工事が始まる予定で、3年後の完成の暁には、本部キャンパスは大きく変貌すると思われま

す。また、本学法人が擁する中等教育機関の高槻中学校・高等学校は、5年にわたるキャンパス全面整備を終え、さらなる教学力向上に注力しており、男女共学制になって5年目となる現在、生徒の学力の向上は目覚ましく、数年後に進学トップ校への飛躍が期待されます。

次に、本学法人は将来構想として高槻市奈佐原にある薬学部の機能を段階的に本部キャンパスとその近郊に移設するため、安満遺跡公園横（阪急電車線路沿い）に、まず1万㎡強の土地を購入しています。また、大学付属の三島南病院（高槻市玉川）は、建物の老朽化もあり、高槻市を含む3市のいずれかの駅近への新築移転を計画しています。また、リハビリを担う理学療法士や作業療法士、臨床検査技師などを養成する新学部及び高槻中学校・高等学校に繋がる初等科としての高槻小学校並びに幼稚園の設置を構想しています。

一方、高槻市は、JR高槻駅南地区【図1】の再々開発をするため、同南地区まちづくり協議会の発足を公表しました。この地区はまさに高槻市の顔となる玄関口となり、高槻センター街から阪急駅前の商店街並びに大阪医科薬科大学・大学病院を抱え、市役所、高槻現代劇場、文化ホール、建設中の高槻城公園芸術文化劇場、そして昨年完成した広大な安満遺跡公園への出発点となります【図2】。高槻市は大阪市と京都市の中間に位置し、JR高槻駅は新快速及び一部特急電車の停車駅となり、また名神高速道路のインターチェンジ設置とともに新名神高速道が開通し、起点となりました。そして市は今城塚古墳公園や安満遺跡公園を整備し、医療等の整った住みやすい街として評価されるようになりました。本大学及び大学病院の在る本部キャンパスは阪急高槻市駅前にあり、JR高槻駅南口からは徒歩7分に位置しており、多くの患者さんをはじめ教職員、学生・生徒はJRを利用しています。駅前から大学北門前を通って安満キャンパスや安満遺跡公園を貫通する高垣線は、街なかの交通網の整備上、重要な幹線道



路と思われます。本学法人としては、今回のJR高槻駅南地区の再々開発で駅前広場の拡大、地下駐車場の整備、バスターミナルの整備、本格的ホテルの誘致、有名店が入るショッピングモール、市役所の一部機能や各大学が利用できる会議施設など、高槻市の表玄関となるスーパースマートシティとしてのまちづくりを期待しています。

本学法人は当該まちづくりへの連携として、大学・中高校の入試広報の窓口や生涯学習センターなどのサテライトオフィスや第2健康科学クリニック（消化器検診センター等）の設置が考慮されます。また、本格的ホテルを誘致できれば、多くの学会や懇親会、宿泊など、本学法人の利用度は大きいと思われま

す。本部キャンパスは、ご承知のように、現在、大学病院の全体建替え事業に基づき工事を進めており、今後の建築計画を進めるにあたり、病院西側への進出を計画しており、JR高槻駅南口に通じる近い位置にも校門を設けたいと考えています。

現在、法人が所有するキャンパス一覧【図3】でお示し致しますように、本部キャンパスは西側や北側へ拡張していることがお判りいただけると思いますが、ゆくゆくは医学部、大学病院、薬学部、看護

学部、そして高槻中学校・高等学校の諸施設を本部キャンパスやさわらぎキャンパスとその近隣に集約していきたいと考えています。

新春を迎えるにあたり、法人・大学の発展やその基盤となるキャンパス造りは、主要駅である阪急高槻市駅とJR高槻駅南地区の双方のまちづくりにマッチさせて拡大させていくことが重要と考え、本ニュース新年号にご紹介申し上げた次第です。

仁泉会の皆様の本年のご健康と益々のご活躍を祈念申し上げます。新年のご挨拶と致します。



## 新年の挨拶

大阪医科大学  
学長 佐野浩一

皆様、明けましておめでとうございます。仁泉会の皆様に謹んで新春のご祝詞を申し上げます。また、平素より大阪医科大学の教育研究に温かいご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。本年も何卒よろしくお願いいたします。

仁泉会会員の皆様にご挨拶する紙面を頂きましたので、ご挨拶に加えて大学統合後の母校の様子をご紹介します。

令和3年（2021年）4月1日、大阪医科大学と大阪薬科大学が統合され、有数の医療系総合大学を目指すため、皆さまの母校は大阪医科大学と改称いたしました。昭和21年に大阪高等医学専門学校が旧制大学に昇格した際に、大正時代に閉校になった「大阪府立大阪医科大学」の誉に浴すべく、「大阪医科大学」の名を冠し、昭和27年（1952年）に校名を変えずに新制大学へ移行しました。その後、令和3年まで長きにわたって慣れ親しんだ母校の名を「大阪医科大学」と改称するには一抹の寂しさを感じますが、母校が医療系総合大学への大きな飛躍を期することを考えると、希望に満ちた改称であります。

大学統合後、新型コロナウイルスが流行しているため大学統合の記念式典に代えて、学報の特集号を発行いたしました。令和3年（2021年）4月1日に理事長より学長と学部長に辞令が交付され、2日には大学院の入学宣誓式、3日には三学部合同の入学宣誓式を執り行いました。また、コロナ禍によって、中止された両大学の令和2年度入学宣誓式（現2年次生）を、新大学の名の下で令和3年（2021年）10月10日に高槻高等学校の体育館にて挙行いたしました。出席した265名の学生たちが入学後一年半を過ぎて、改めて勉学への誓いを立てた姿が印象的でした。

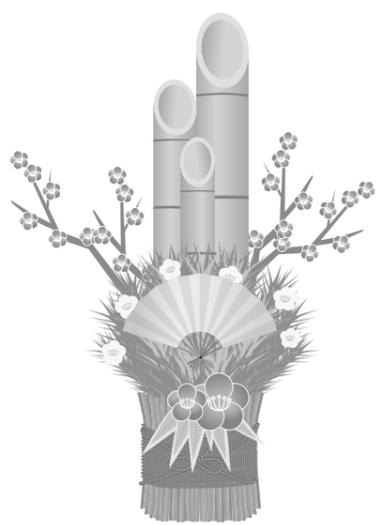
医学部は単科大学としての長い歴史を誇り、看護学部が設置された後もその名残があり、また、薬学部も同



様でありました。大阪医科薬科大学では、各学部の学問的独立を保ちつつ、連携融和して、医師、薬剤師、看護師を育成いたします。皆様の母校は、医学部（School of Medicine）であり、本学医学部を卒業する医師たちは皆様の後輩であります。今春以降に卒業する若き医師たちも皆様の後輩としてご厚情賜りますようよろしくお願いいたします。

学部運営に関しましては、学校教育法の改正により、教授会は学長の諮問機関と位置づけられ、法律に定められた事項について審議を行うことをすべての教授が改めて確認し、各学部に学部長を置いて教授会運営に当たっております。私共の母校である医学部（School of Medicine）の学部長には同窓の内山和久先生（学32期）が着任されました。各学部の教授会は学長の諮問機関として、その主宰は学長より学部長に委任され、教授会の品格と権威を守るため、毎回「学校教育法第九十三条と学部教授会規則第3条に基づき開催される」ことを宣言しております。

本年の干支は壬寅年で、陰陽五行説によれば、「陽気あふれる春の芽吹き」を意味すると申します。今まさに芽吹いた母校大阪医科大学は、これから新しい時代の医療系総合大学を目指してまいりますので、仁泉会の皆様におかれましては、倍旧のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。同窓の皆様におかれましても、陽気あふれる春の恵みがございますようお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。



## 新年に向けて

東日本支部長  
酒谷 薫（学30期）

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

コロナ災禍が長らく続いておりますが、仁泉会の諸先生方は如何お過ごしでしょうか？小生は昨年2021年3月末をもって65歳の定年（東京大学大学院）を迎えました。25歳の時に母校の脳神経外科に入局しましたので、ちょうど40年の歳月が経ったこととなります。大阪医大を経て、ニューヨーク大学、イェール大学、札幌医科大学、日中友好病院（北京市）、日本大学医学部、工学部、そして東京大学大学院と色々な職場で働かせて頂きましたが、この間に素晴らしい指導者や同僚、友人と巡り合えたことは私の人生にとっての宝物になっています。心より感謝する次第です。

さて今後の活動ですが、年甲斐もなく、ベンチャー企業を始めることにしました。仁泉会報でも紹介しましたが、AIを用いて健診データより認知症の発症リスクを推定するアルゴリズムを開発しました。AIとCognition（認知）を組み合わせ「AICOG」（アイコグ）という名前を付けました。この技術はアミロイドベータ等の認知症に特異的なバイオマーカーを測定するのではなく、一般血液検査などのデータのみ使用するので、これまでできなかった認知症のマスクリーニング検査が可能になりました。この特許をもとに、大学の仲間たちと「(株) 医光ヘルステクノロジーズ」という東大ベンチャーを立ち上げたのです。東大ベンチャーとは東大で発明した技術を基にした大学発ベンチャー企業の総称です。最近、新日本科学（SNBL）という医薬品開発受託研究機関（CRO）が医光ヘルステクノロジーズに出資してくれることになりました。そんなわけで、一旦定年退職になりましたが、新年度も引き続き東大で研究を続けることになりました。

「医光」という名前ですが、「医光寺」という曹洞宗系の寺の名前を頂きました。じつは、父の祖父は広島のお寺の住職をしておりましたが、原爆により代が途絶えてしまったのです。その寺の名前が医光寺だったのです。父は眼科医になり神戸で開業し、

医療法人名を医光会として医光の名前を継ぎました。しかし、私が眼科を継がなかったので医光は途絶えてしまいました。そんなわけで、親不孝の罪滅ぼしとして、ベンチャー企業に医光の名前を付けた次第です。コロナ災禍の中での船出となりますが、老体に鞭を打ちながらチャレンジしようと思えます。

末筆になりましたが、皆様の益々のご活躍、ご健康をお祈り申し上げます。

## 新春のご挨拶

静岡県支部長  
吹田浩之（学36期）

新年、明けましておめでとうございます。旧年中はコロナコロナで明け暮れた日々でした。私のクリニックではワクチン接種を日曜日に行ったため、3週間休みがない時があり、大変でしたが患者さんが喜ぶ姿を見て頑張れました。会員の皆様もご苦勞の絶えない一年だったと推察いたします。

明るい話もありました。静岡市と山梨県を結ぶ中部横断道が8月28日に全線開通いたしました。身延道といわれた道で、古くから駿府と山梨を結ぶ重要な交通路でした。南部町までは富士川と共に下ってきます。山梨の商人がこの街道を下り静岡市の繁華街である呉服町に店を開いたといわれています。武田信玄も今川を攻めるときにこの街道を下ったことでしょう。清水の次郎長もこの街道を利用して商売していたと言われています。かつては自家用車で3～4時間かかっていた甲府まで1時間で行くことができるようになりました。信玄の隠れ湯と言われた名湯、下部温泉には45分で行けます。冷泉で長く入ることができて、湯治としては最高です。あの石原裕次郎さんも骨折後の療養で1か月滞在したようです。さらに山梨には美味しい果物や野菜、馬刺しやほうとうなどたくさんあり。それらが身近なものになりました。静岡県民の新たな旅行先として山梨県が今注目されています。

コロナの流行から高槻市に行く頻度が減ってしまいましたが、次男が関西医大に通学している関係で、年に1回10月に枚方市を訪れます。私の学生時代は淀川河川敷ぐらゐまでは行きましたが、枚方市に行くことは少なかったように思います。あまり繁華街もなく地味な印象の街でしたが、関西医大が枚方市に移転したことにより賑

わいが増え、活気が出て発展しているように見えました。関西医大の校舎も附属病院も立派です。昨年は新たにタワーが建っていました。これはうかうかしてられないぞと感じました。ライバルに負けないよう、我が愛する大阪医科薬科大を応援していきたいと思います。健康に留意して今年も頑張りましょう。

## Against COVID-19

岐阜県支部長

小嶋昭次郎（学 29 期）

新年明けましておめでとうございます。昨年は、新型コロナウイルスのワクチン接種も順調に進み、その効果もあり秋には新規感染者数が大幅に減少し、我々医療人も一息つくことができました。しかし、忍び寄る感染拡大第6波に備えて、3回目のワクチン接種が年明けから始まろうとしています。地域医療に携わる我々にも、奮闘の日々がまた待ち構えているようです。

ワクチン接種が予定通り進んだとしても、COVID-19が完全に終息した“Zeroコロナ”の社会を期待することはできず、ある程度は収束するがウイルスは残存する“Withコロナ”の社会が続くであろうと言われています。このWithという言葉は、ややもすると「共生」と捉えられ、他の生命体との「友好的関係」ととらわれがちですが、決してこのウイルスに対しては気を緩めることなく戦い続ける「敵対的關係」であり、むしろ“Againstコロナ”の社会と呼ぶ方が妥当ではないでしょうか。パンデミック初期の段階では、このウイルスに対して無力であった人類は、人的交流を減らし感染拡大を抑え込むことに必死でした。このため飲食業や観光業を始め多方面で経済活動は大幅に抑制され、また学校教育、介護、医療といった人と人が触れ合う場も大きく様変わりしました。しかし、人類は英知を結集しこのウイルスとの戦いを続け、ワクチン接種、抗体カクテル療法、経口抗ウイルス薬などを次々と開発し今に至っています。更に研究・開発が進み、簡便で有効性・安全性の高い治療法が確立され、このウイルスがインフルエンザ並みの扱いを受けられるようになれば、わたしたちの日常生活を取り戻すことができるでしょう。

しかし現実には、まだまだ元通りの日常には程遠く、仁泉会岐阜県支部も一昨年、昨年の二回の支部総会

の開催を断念している状況です。今年は、愛知県支部主催で新三水会（愛知・三重・岐阜三県支部合同の会）が、名古屋で開催される予定になっております。その頃には感染状況が落ち着いており、多くの方に安心してご参加いただけることを祈っております。ご準備頂く愛知県支部の皆様にはご苦労をおかけしますが、宜しくお願い致します。

“Postコロナ”の社会ではIT化、リモート化などの変革が待ち受けており、我々医療界も例外ではなさそうです。いまだに紙カルテを使っているアナログ人間の私も置き去りにされないように必死に努力しようと年頭に決意を新たにしております。

## 今年は、「寅年」明るいな年にしよう。

京都仁泉会 会長

松本恒司（学 26 期）

明けましておめでとうございます。

新型コロナに影響を受けて丸2年が経ちました。今年も楽しみにしていた、京都仁泉会恒例の「音楽の夕べ」ができませんでした。そこで、「会報42号」を充実させようと、森本副会長を中心に、多くの先生方に寄稿していただき、20人近くもの先生方から、多方面の話題、近況報告など、あたかも「音楽の夕べ」に集ったかのような会報誌になり会員の皆さまに喜んでいただきました。今回よりフルカラーで鮮やかになり、表紙はいつもの田代博先生版画で「京都五山の送り火」でした。

夏の猛暑の中、TOKYO2020、オリパラが開催されました。幸い大きな感染爆発の直接の原因にはならなかったものの、気の緩みをもたらしたことは否めません。9月に入り新学期が始まると、第5波の感染拡大で、京都では一日500人も新規感染者が出て、家庭内感染が問題になりました。そんな中、10月に入り、どうなるかと思いましたが、ワクチン接種が功を奏したのか、日本人のマスクや生活様式のせいなのか、急速に新規感染者が減少しました。コロナのカタストロフィー（自滅）によるものなのかは、わかりません。

いずれにせよ、11月初めには新規感染者は10人未満となり減少しました。かねて企画を進めていた、11月20日（土）の学術講演会は開催することができました。一応、ハイブリッド形式でしたが、会場の参加者18名、Webでの参加者4名でした。大阪医科薬科大学 内

科学1 糖尿病代謝・内分泌内科の佐野寛行先生による「2型糖尿病の早期治療強化の重要性」の講演を賜り、座長の北岡治子先生の総括により、久しぶりの貴重な講演会になりました。

学術講演会后、ホテルオークラのお弁当を楽しみながら、近況報告や話題提供に花を咲かせることができました。まさに、絶妙のタイミングの開催であったと思います。

皆の願いは、このまま新型コロナが収束すること、ひたすら祈るばかりです。しかし、世界を見れば、ドイツ、イギリス、韓国など再び感染が拡大しています。日本でも第3回目のワクチン接種が既に予定されています。

ともかくにも、5月末の仁泉会本部総会の頃には、会員一同、顔を合わせてお目にかかりたいものです。コロナが収束して、今年が平穏な1年になりますことを心から願っております。



田代博先生（学 23 期）の版画：「京都五山の送り火」

松本恒司先生は令和3年12月17日にご逝去されました。ありし日の先生を偲び、そのまま掲載いたしました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

## 謹賀新年

仁泉会大阪府支部連合会会長

霜野良一（学 28 期）

新年明けましておめでとうございます。仁泉会会員の先生方におかれましては、益々ご健勝のことと

存じます。

昨年4月1日には、大阪薬科大学と合併して大阪医科薬科大学となり、また新学歌も完成し、普通ならば盛大なお祝いをすべきところですが、一昨年よりの新型コロナ感染症の影響で自粛せざるをえませんでした。

住吉区医師会においても理事会、各種委員会はZoomで行われており夏期懇親会、秋のリクレーション旅行、新年互礼会、健康まつりも全て中止となっています。

仁泉会大阪府連の活動も一昨年よりほぼ休止状態で理事会、支部長会、各支部会、秋の学術講演会も開催されておらず、非常に残念で淋しい思いをしています。

11月20日（土）には久しぶりに大阪府連の理事会を開催し今後の活動などについて理事の先生方と協議したいと考えています。原稿を書いている時点（令和3年10月中旬）ではコロナの第5波もかなり落ち着いてきており、東京、大阪などでも1日の新規感染者数が二桁となっています。ワクチン接種の効果で減っているのなら良いなあと思います。しかしワクチンだけではなく、インフルエンザに対するタミフルなどの様な特効薬が出来ない限り平常な日常に戻るのには難しいでしょう。

幸いにも弊院ではコロナ感染者は発生しておらず何とか平穏無事に診療をしておりますが、先生本人がコロナに感染したり、濃厚接触者となって休診を余儀なくされたという話を聞くと、いつ我が身に振りかかるとも知れず安穩とはしておられぬ状態です。

私個人としては皆と集まって楽しくワイワイと美味しいお酒を呑む宴会が大好きですが、令和元年春に第一回目の緊急事態宣言が出てからは各種会合、会食も一度もなく電車にも2、3回乗っただけで、毎日、自転車で2分位の診療所と自宅を往復する生活をしています。

以前は週3、4回、自宅前の公園を1.2~3km走っていましたが、外出時はマスク着用が必要ですので、現在は週末に1時間ほどウォーキングをして少しでも足腰を鍛えておかねばと考えています。

まだまだ先の見えない状況ですが、来年の新年号の原稿には、心から「新年おめでとうございます」の文章を投稿したいです。そして各先生方とお会い出来る日を楽しみにしています。

## 日本沈没—希望の人—

港区支部長

奥村隆司（学 31 期）

謹んで新春の祝詞を申し上げます。新春号でいきなりこの題はなんや、縁起悪いなあと思われる先生には申し訳ありません。昨年秋にこのタイトルのTVドラマがあり懐かしさ半分で観ておりましたが、なかなか面白かったです（執筆時はまだ最終回は見ていません）。原作はご存知の通り1973年に大流行した小松左京の小説です。当時、高校生であった私は、想像もつかない内容であったのでただビックリしただけでした。私の兄などは「日本沈没するからもう勉強せんでええなあ」と能天気な事を言っておりました。しかし、阪神大震災、東日本大震災、異常気象、新型コロナウイルスの流行などを実経験したなかでこのTVドラマを観ると色々と考えさせられるものがあります。記憶を戻すために1973年に上映した映画をネット配信で観てみました。危機に直面した時にいかに対応するか、国を失った日本人が諸外国に難民となった時に生き抜くことが出来るのかななどを問いかける内容です。CGのない時代なので模型を使った特撮で当時の最高技術を用いた満載の迫力満点の大スペクトル映像でありました。国が無くなり1億人もの大難民群を諸外国に引き取ってもらうために政府はD2計画というものを作ります。丹波哲郎扮する総理は全身全霊で国民のために最後まで救助活動を模索します。漫画チックではありますが、つい最近まで総理をして人と比べると遥かに国を守るリーダーシップを呈していました。影の実力者である謎の老人が「何もせんほうがいい」と意味深長なメッセージを言い残していますが、これでは困ります。津波のように襲ってくるコロナ禍で日本が沈没しないよう政治家たちは叡智を絞って一人でも多くの命を守って欲しいものです。ワクチン開発、治療薬、医療体制の強化など色々な希望の光が差してきました。今年は壬寅（みずのえとら）で暦の説では「陽気を孕み春の胎動を助く」厳しい冬を乗り越えて春には生命力に溢れ華々しく生まれる年になるようです。期待します。もうひと頑張りです。それにしても若き日のいしだあゆみと謎の老人をお世話する女優さんは妙に色っぽく綺麗かったなあ。

## 謹んで新春のご挨拶を申し上げます

阿倍野区支部長

福本敏子（学 24 期）

新年あけましておめでとうございます。旧年中は新型コロナウイルス感染症というかつて経験したことのない感染症に対し非常事態宣言が発出され、人類すべてが見えない敵に立ち向かった一年でした。開業医、勤務医の別なく、すべての医療関係者にとって大変厳しい1年でした。非常事態宣言下では精神面、身体面に様々な弊害がみられました。

しかし、年末近くになり、やっと感染者数も減少し、社会全体が少しずつではありますが動き出し、経済活動も再開されてきました。まだまだ油断はできませんが、今年も「with コロナ」で知恵を出し合い、この1年を乗り切ってまいりましょう。リアルに会うことはできませんが、ITの発達により、会議はZoom会議が開催され、遠く離れていてもお互いの顔を見ながら会議をすることができました。

阿倍野支部では旧年中は残念ながら支部会は開催できませんでしたが、今年新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、できればリアルに総会、懇親会を開催できないか模索しています。阿倍野区は大阪市の最も南に位置しますので、高槻市の大学本部からは遠いため、仁泉会阿倍野支部会員の中で病病連携、病診連携を心がけています。

一般社会同様、医療業界も厳しい状況にあります但仁泉会会員同士、助け合い今年も頑張ってまいりましょう。

今年もご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## “患者の家族になった気持ちで”

住吉住之江区支部長

濱崎憲夫（学 42 期）

新年あけましておめでとうございます。

仁泉会員の皆様には、爽やかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年も新型コロナの影響により支部総会の開催はおろか、支部の諸先生方とも連絡がおろそかになってしまい大変申し訳なく思っております。今年こそ感染対策に十分気を配りながら支部総会を是非開催したいと思っております。

さて昨年は、僕の父が殊更感染対策には気を付けていたにもかかわらず、新型コロナに感染し発症いたしました。3月31日に微熱鼻水が続くとのことで、僕が抗原検査を実施し陽性確認をしました。感染経路は不明であり幸いにも濃厚接触者にあたる者がおらず、僕をはじめとして感染対策をしながら対応してくれた当院スタッフも全員がPCR陰性でありました。時期としていわゆる第4波に突入する直前ということもあり、高齢から幸運にも病院入院加療となりましたが、入院10日後には重症化し、これまた幸運にも大阪医大のICUで加療をいただくことができました。父とは入院後は電話での会話のみで、重症化した挿管人工呼吸器管理後はICUの先輩先生方からのご説明だけが頼りとなりました。超ご多忙な時期にもかかわらず先輩先生方からは父の状態を非常に優しく丁寧に御説明いただきました。肉親のあつという間の重症化に、新型コロナの恐ろしさを目の当たりにし、又家族の治療に何の力にもなれない自分に情けなさを感じておりましたが、先輩先生方の優しいムンテラ（あえてインフォームド Consentとせずに）は、僕に大きな安心感を与えてくれました。また大学勤務の先輩先生をはじめとする諸先生方が、日々の状況をかわるがわる連絡してくれたことは僕を大いに勇気づけてくれました。

大阪医大の先生方のお力により、父は快方に向かい、そしてご厚意から抜管翌日には父との電話をつなげてくださり、いつもの怒鳴り声を聞いた時は、びっくりするやら嬉しいやらで胸がいっぱいになったことを思い出します。その後父は、リハビリ病院に転院し、約3カ月間のリハビリ期間を経て在宅復帰いたしました。お世話になった先生方には感謝してもしきれません。

研修医時代には、「患者の家族になった気持ちで治療を行え」と指導医先生から教えられたものです。今回は自分では治療ができず、面会もできないような病気に家族が罹した時、つまり医師としてではなく大病を患った患者の息子という立場になった時に、ようやく僕はその言葉の大切さがわかりました。大阪医大の先生方が、まさしく家族の気持ちになっ

て優しく伝えてくれたのです。

僕は通常外来診療以外に介護老人保健施設、特別養護老人ホームを運営しており、そこには施設で看取らせていただくこともある入所者が多数いらっしゃいます。コロナ禍において面会制限などで御家族となかなかお会いしていただけない現在、「患者の家族になった気持ち」で治療にあたり、御家族に本当のムンテラをする努力を続けております。もちろん感染対策にも最大の注意を払いながら。（笑）

末筆ながら、新年を迎えまして益々の大阪医科薬科大学のご発展、そして仁泉会と会員の皆様のご多幸を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

## 新年のご挨拶

高槻市支部長

保田 浩（学 31 期）

仁泉会の皆様、新年あけましておめでとうございます。

一昨年より続いておりますコロナ感染の拡大により、診療や経営、一般生活に多大な影響を受けております。高槻支部の総会・懇親会も二年連続で中止となっております。今のところ感染拡大は収まっているようにも思えますが、今後はまだまだ予断を許しません。

私は高槻市医師会で高槻市（人口約35万人）と島本町（人口約3万2000人）のワクチン接種実務を担当しており、昨年はこの業務に追われました。国の方針が二転三転してゆく中で、行政と密に連絡を取り合いながら、先を読んで進めてまいりました。まずは経過ですが、去年の1月ではワクチンの保管の問題もあり、集団接種のみの計画でした。そこからワクチンを小分けしてもよいこととなり、個別接種も可能と判断して高槻市では個別を中心に進めてゆくことにしました。島本町では個別医療機関への集中を避けるため、集団（週3回）中心で進めることとなりました。「4月より高齢者の接種が開始できる体制を整えること」との政府の指示で、集団・個別と会場や人員の確保をいたしました。結局ワクチンが全く入ってこず接種のスタートは5月中旬となりました。ワクチンの配布も制限された中で、高槻市では高齢者10万人に接種券を一斉に送付し

たため混乱がおき、医師会員の皆さまに大変迷惑をおかけすることとなりました。その後、6月にはワクチンが大量に供給され、菅総理から「7月末には高齢者の一回目の接種完了」の目標の踏み絵を踏まされました。市町の各病院にもお願いして接種のスピードを上げました。とりわけ大阪医科薬科大学には7月から駅前グリーンプラザ会場で毎日、医師・看護師・薬剤師を派遣して協力していただきました。ところが、7月中旬に「ワクチンが足りない」ということになり、配布が従来の半分に制限されました。しかし、個別医院の迅速なVRSの入力により、行政で個々のワクチン接種数や在庫の把握が正確にできていたため、接種をストップすること無く進めました。また、各個別医療機関の努力で制限配布を守って接種していただけると判断できたので、接種対象年齢をどんどん下げてゆくこともできました。その後順調に進み、11月末には高槻市・島本町ともに接種対象人口の約85%が完了しております。

今後は三回目の接種と児童の接種も始まります。果たして上手く行くのかはワクチンの供給次第と思っております。まだまだ悩む日々が続くようです。さて、今年の仁泉会高槻支部総会・懇親会は、6月18日（土）に高槻に新しくできた「ホテルアベスタグランデ高槻」で開催する予定です。コロナの状況次第ですが、たくさんの方々に参加していただき交流を深めてほしいと考えております。何卒よろしくご参加お願いいたします。

最後に、今年も仁泉会の皆様にとってすばらしい年でありますようにお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

## 卒業後50年を過ぎて思うこと、又、大阪薬科大学との法人統合について思うこと

**松原市支部長**

**松本泰仁（学20期）**

卒業後50年を過ぎ、医師として半世紀が過ぎましたが、昨年来のコロナ禍にていろんな楽しみが奪われました。その一つが、本来今年開かれる予定の

卒後50周年を記念しての同窓会である、多くの同窓生との沢山の、この半世紀のお互いの話題を話し合いたかったです。

小生は卒後大阪医科大学には残らず、医局制度でのあちこちの関連病院への出向が嫌で、それがないと聞いた、関西医大の附属香里病院の外科に入局させてもらった。

大学に残っていれば、同級生とはたまに顔を合わせることもできただろうが、他大学の先輩達との仕事である。

病院では、研究とかはダメで、臨床のみで、外来のシュライバーに始まり、手術の助手と毎日コマネズミのように走り回っていました。

いろいろ質問されても、ちゃんと答えないと、お前の大学ではそんなことも教えてもらっていないのかと云われるのが嫌で、勉強もしました。そのうちに主治医としてのアッペやヘルニアをさせてもらうようになり、一日にアッペが3件、ヘルニアが2件と云う日もありました。術後管理も大変でしたが、手術記事を書くのも、この人はどうだったかと思うこともありました。おかげで16年の長きに渡り、勤めさせていただき、手術件数では同級生には負けない位の手術をさせていただき、時々先輩からあちこちの病院の手術も頼まれたりもしました。大学の外科部長になることも思っていました。同級生だった垣谷隆一郎君に自分の病院の外科に来てくれと云われ、2年越しで後任が決まり、垣谷君の病院での仕事が始まりました。自宅は関西医大香里病院の近くに、家を建てていたので、毎日が車での通勤でありました。実家は垣谷君の病院と同じ松原市にあり、父が開業医で頑張っていたので、外科医ということで家業を継ぐ気はなかったですが、垣谷君の病院で5年目となった頃に母親から父親が80歳を越して、事故とかを起こしたら大変だからと、早く帰ってきてほしいと言われ、小生も50才を前にしていたので、外科医としてあと何年メスを持てるかを考えると、母親の申し入れを受けいれ、実家に帰ることをしました。

幸い、実家診療所の駐車場にしていたスペースがかなりあり、その部分に、大部分を自分で設計した診療所を建てて、開業医生活をスタートしました。

最初の6年間は、父との共同で診療に当たり、この患者さんは父の、この患者さんは小生の…としていました。

父は鬼籍に入る前日まで診療所に出て来ていましたが、少し呼吸がしんどそうなので、大阪市内の病院勤務の弟（学25期）に電話し、明日病室を準備しておいて欲しいと連絡するも、翌朝には妹から父が亡くなっていると電話連絡があり、86年の人生に終止符を打ったのです。

8年前には、診療所の隣接地が空き地となっていたのを買い取り、診療所を2倍強の広さに増築し、内視鏡室も設置し、3年前から息子（関西医大卒）が内視鏡専門医であることから、週一回内視鏡検査に来てもらっている。

3年後には理事長を息子に譲る予定である。地域医療が守られることをわたくしは喜んでいます。

卒業50年を過ぎ、大学が大阪薬科大学との法人合併により、松原地区での仁泉会の代表として、コロナ禍が落ち着けば、大阪薬科大学の松原地区の卒業生との会合を持ちたいと思っています。

松原には以前大阪薬科大学の校舎があり、大阪医科大学の薬理学の羽野先生が時々松原市内の大阪薬科大学に行っているから遊びに来いと云われ、幾度か訪ねたことを覚えています。今はその場所には、私立阪南大学の附属高等学校が建っています。

現在大阪薬科大学を卒業され、松原市内での勤務薬剤師の先生方はかなりおられるようです。

知り合いの薬剤師の磯野元三先生が松原市の薬剤師会の会長をされており、一度お話しをしたい旨を伝えました。まだ仁泉会からはお話しをいただいていませんが、松原市では合同の同窓会の開催を前向きに考えたいと思っています。

## 新年のご挨拶

**和歌山県支部長**

**田伏俊作（学20期）**

新年あけましておめでとうございます。

一昨年は新型コロナウイルスにより仁泉会和歌山県支部の総会が中止になり昨年こそはと思っていたが、役員の方々のご意見として中止が妥当という意見が多く、副支部長・庶務と私の3人で中止と決定しました。その後第5波の経緯を見ると結果論ではありますができなくはなかったとも考えられますが…今年に託したいと思います。

さて、私がこの仁泉会和歌山県支部の総会に初めて出席したのはまだ若かりし頃で名簿を見ても後ろの方でしたが、今は上から数番目になってしまいました。それだけ年をとったということですが…。今まで先輩の先生方が続けてこられたこの和歌山県支部を、そして昨年4月に大阪医科薬科大学になって元大阪薬科大学卒の先生方（和歌山では大阪医大卒の6～7倍多く、近くで知らぬうちに会っている可能性もあり）との交流を深め、更に仁泉会の諸先生方との親睦を図っていけるようにしていきたいと考えます。支部の総会もどうしても同じ顔ぶれになりがちで、若い先生方は何かとご多忙の事は重々承知しているのですが、年1回の総会への参加を願ってやみません。以前は総会の翌日はゴルフなども行われましたが、この10数年はなく、何か新しい企画をと模索しております。それよりも第6波が来ないように祈るのみですが、これからはウィズコロナでいく覚悟が必要とも思います。抜かりなく対策を行なってコロナに罹患せず元気に行きたいものです。今年も仁泉会の皆様方のご健勝を祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。

## 新年のご挨拶

**神戸支部長**

**増井裕嗣（学29期）**

新年あけましておめでとうございます。

COVID19のおかげで仁泉会神戸支部でも丸2年間、新年会と夏の支部総会ができておらず残念で仕方ありません。新年会でしばしば利用していたアロード北詰の神戸クラブはまだ大人数の利用はできず、北野坂のイタリアンレストラン Rヴァレンチノは閉店しました。これらの会はいつも40名ほどの参加があり非常に活気があるため、今から令和5年の新年会場探しに悩むところです。

さて昨年神戸は7月の兵庫県知事選に始まり、選挙づくしの年でした。総選挙と同日に行われました神戸市長選挙では久元喜蔵氏が現職の強みを生かし3期目の当選を果たしました。ワクチン接種のスケジュールや病床確保、宿泊施設の拡充など手探りながらもよくやられたと思います。然し神戸市はここ数年で福岡市と川崎市の人口で抜かれ全国7位に転落しました。大好きな神戸

の活性化に頑張ってもらいたいと思います。度重なる緊急事態宣言の発出で会食や旅行もできず新年の挨拶にふさわしいネタがなく申し訳ありません。

今年こそ支部総会で皆さんの笑顔に2年ぶりに再会したいものです。

## 新春のご挨拶

岡山県支部長

小出尚志（学 28 期）

新年あけましておめでとうございます。

初夢は見られましたか？いつ見る夢が初夢なのか、これには諸説あるようですが、初夢の縁起物は定番で一富士、二鷹、三茄子、さらに四扇、五煙草、六座頭と続きます。しかし、今年は「コロナ終息」宣言の初夢で一年のスタートを切りたいと願う人も多いことでしょう。

仁泉会岡山支部の活動については、コロナ禍の続いた令和3年も、一昨年に続き活動停止状態にあります。ワクチンと内服治療薬の普及に期待して、今年こそは活動再開に向けて頑張りたいと思っています。

さて、今年の干支は「寅」です。寅に対する十二支の動物は「虎」です。虎と言えば阪神タイガース！咆哮する虎のシンボルマークが大好きの虎キチのみならず、虎は勇壮・威厳のイメージとともに決断力と才能の象徴とされており、虎の図は昔から縁起物として好まれてきました。私の記憶にある見事な虎図は、二条城二の丸御殿遠侍、通称「虎の間」の「竹林群虎図」です。壮大な空間で獐猛な虎に睨まれながら控える来殿者が、さぞかし徳川將軍家の権力の大きさを実感したであろうことは容易に想像できます。虎図はここしか知りませんでしたが、虎図をキーワードにネット検索するといろいろ出てきて、虎図の蘊蓄（うんちく）にはまりそうです。京都御所では御常御殿・御寝の間にある「竹二虎」、諸大夫の間の「虎図」、迎春南の間にある「群獣に草木」。さらには相国寺・林光院の虎図、金戒光明寺の虎の襖絵、南禅寺の群虎図、一乗寺曼殊院門跡の虎の図、妙心寺頭塔隣華院の竹虎図報恩寺の鳴虎図など、由緒ある寺社で虎図の襖絵・障壁画・掛軸が今に伝えられており、いずれも狩野派、土佐派、岸派など日本絵画の名流画派の絵師の作品です。蘊蓄を語るには本

物を見なければなりません。一年の計は元旦にあり。コロナが収まるようなら、寅年は各地の虎の襖絵や障壁画の鑑賞ツアーで楽しもうと思います。したがって、今年の初詣、私のお願い事は、コロナ終息、阪神タイガース優勝、虎図鑑賞ツアーの安全祈願、その他諸々となりそうです。どうかこの一年が良い年となり皆様に幸せが訪れますよう祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。

## 新春のご挨拶

鳥根県支部長

林 孝乾（学 30 期）

ここ2年くらい、新型コロナウイルス感染症に翻弄された生活でした。2019年の1月、家内と京都嵐山に旅行に行き、沢山の観光客の中、散策しながら、中国でまた肺炎を起こすウイルスが出たらしいなどのんびり話していたことを懐かしく思い出しますが、その時はそのウイルスがここまで世界に広がって我々の生活に影響を及ぼすとは思ってもみませんでした。

私の住んでいる鳥根県は、密になるほど人がいないせいか、比較的穏やかな感染の流行で、東京、大阪で酒類の提供が止められているときでも、居酒屋で酒を飲むことができ、大阪から来た長男が驚いていました。

鳥根の人口は東京の約22分の1ですが、コロナ患者の総数は11月23日の時点で382, 112人、鳥根県は1731名で東京の約221分の1、死者数は、東京3164人に対し、鳥根5人で633分の1となっています。しかし、人々はやはり神経質になっていました。鳥根に限らずだと思いますが、地方ではもともと感染者数が少ない所に、どこのだれがコロナに感染したことは、発表されなくても光よりも早い?といわれる田舎の噂話ですぐ広まってきます。だからかえってぴりぴりしていたような気がします。

私は出雲市で整形外科の有床診療所を経営しており、2017年より日本臨床整形外科学会（JCOA）の有床診療所部会の部会長をしています。コロナの影響という面ではうちの診療所では運用面では非常に影響があったものの、経営面では影響はほとんどありませんでした。かえってどこにも学会に行かずじ仕事をしていたので、売上げが増えたほどです。さらに整形外科であってもできる限りのことはするとの考えで、コロナのワクチンの個別接種を行い、スタッフ挙げて市が主催する集団

接種にも協力したので、多忙でした。しかし、JCOA有床診療所部会の仕事として私の得た情報では、都会の整形外科有床診療所は、かなりの影響をうけた様です。

ごく最近、新規感染は日本ではおさまりつつあります。しかし、世界ではオミクロン株が広がっており、刻々と状況が変化してまだ予断はゆるしません。オミクロンとは聞いたことのない言葉でしたが、ギリシャ文字を $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$ とたどると、15番目に出てくる文字で、書き方は英語のOと同じなようです。これまでの最新の変異株は $\mu$ （ミュー）だったので、どうやら理由はわかませんが、ニュー（ $\nu$ ）とクサイ（ $\xi$ ）の二つの文字が飛ばされた形になったようです。クサイ株など、日本語で聞くと変だからというわけでもないでしょう。そしてギリシャ文字最後の $\Omega$ （オメガ）まであと9つしかありません。いつか $\Omega$ 株が出てくるのでしょうか。そのあとは星座の名前を使うとか言う話ですが、まさかWHOも変異株の名称にギリシャ文字全部使ってしまうなど想定していなかったでしょうね。とにかく、令和4年度こそは、日常生活が正常に戻って欲しい。

さて、私が仁泉会の鳥根支部長になって2年になりますが、コロナ禍のため、目立った活動ができていません。来年度は、状況を見てですが、ぜひとも鳥根支部会を開催したいと考えています。今年もよろしくお願い申し上げます。

## 新年のご挨拶

香川県支部長

石田達也（学 28 期）

令和4年となりました。明けましておめでとうございます。

コロナ禍により、飲食業、運輸・旅行業などが大きく落ち込み、医療におきましても、耳鼻咽喉科と小児科の経営難が報じられています。実際、私の領域（耳鼻咽喉科診療所）では、昨年香川県内で4医療施設が閉院を余儀なくされました。人口100万人弱の小さな県における出来事ですので、衝撃的なことであります。これからの医療情勢によってはさらなる変化が起こるかもしれません。

私事ですが、当院での診療内容に少し触れてみます。感染対策が徹底され、マスク装着、厳重手洗い、アルコール消毒が日常生活におけるあたりまえの行為となり、その結果、上気道炎を始めたとした炎症性

疾患の多くが減少しました。他方、働き盛りの年齢層では、リモートワークが推奨され同じ姿勢のままでのパソコン操作の連続により眼精疲労、緊張型頭痛、めまいの訴えが増えています。また高齢者では、巣ごもりの長期化で社会的交流が欠如し、動かない生活に起因する筋力低下や深部知覚低下によって歩行障害・ふらつきの訴えが増えています。ということで、従来、粘膜疾患を中心とした炎症対策が診療の主軸であったものが、平衡神経を始めとした機能不全対策に多くの時間を費やす診療形態にシフトしつつあります。「今までの耳鼻咽喉科はどこへ行ったのか」と戸惑う時もありますが、これが現実のようです。これからは、ウイズコロナの時代を楽しむくらいのおおらかさを持ってやっていかねばならないと自身に言い聞かせる毎日です。

さて、香川県では従来年1回支部総会を行ってきたのですが、コロナ旋風によってここ2年間開催を断念せざるを得ませんでした。今年こそは皆で集い、愚痴を言い合い、親睦を深めたいところではありますが、さあどうでしょうか。嵐の再来を予見する専門家もおられますし、変貌し続けるコロナウイルスのことですので全く先が読めません。早く画期的な対策薬が出てきて欲しいと願う次第です。

明るいニュースをひとつ。今年印藤直彦先生（学56期）が高松に戻られることになりました。早くに亡くなられたお父様の遺志を継ぎ、内科医院を再興されるとのことです。これからの時代を担う中堅どころでもあり、今後、香川県支部の核となってしてくれるものと大いに期待しております。

平穏な日常生活を取り戻し、笑顔溢れる毎日を過ごせるように今年も励んでいきたいものです。最後に香川県支部の盛況と皆様のご健勝を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。



## 謹賀新年

愛媛県支部長

井関亮甫（学23期）

仁泉会の皆様、明けましておめでとうございます。令和三年十一月二十日（土）18時30分より料亭「いづみ」にて、ふぐ料理のフルコースを食べながらの支部総会開催を致しました。今年度は新型コロナウイルスの感染下でもあり大学からの来賓は無しということもあって残念ながら参加者も5名と少なく寂しい会食となりました。話題は各自の近況、学生時代の思い出話、薬学部合併における諸事情、コロナ禍による開業医への影響等、多岐にわたり終始なごやかに過ぎていきました。最後に来年は各自一人の友人を誘って参加することを約束して散会となりました。出席者は次の諸先生方5名です。（写真参照）横山 闡先生（学15期）井関亮甫（学23期）佐藤晴瑞先生（学28期）細田欣也先生（学44期）佐々木淳子先生（学44期）



## 卒業30年を迎えるにあたり

学41期評議員

藤田一彦（学41期）

仁泉会から2022年に卒業30周年を迎えるにあたり、仁泉会ニュースに新春の挨拶の原稿執筆を依頼されました。卒業して、30年の月日が過ぎたのかと改めて気づかされました。大阪医科大学（現在の大阪医科大学）卒業後も高槻市に在住しており、時折、大学に赴くことがあります。敷地内に新しい病棟が建設中で、聞くところによると三島救

命救急センターがそこに移転するとのことで、卒業生として完成が楽しみであります。

2021年は、コロナ禍のなかで、同期生の一人が事故で亡くなるという非常に無念で残念なことがありました。今でも信じられませんが、いつどのようなことが自分の身にも起こるかわからないなど今更ながらに思います。コロナは第5波が収束しました。世間はそのまま収束してほしいという期待と第6波がいつ来るのかという不安のなかで過ごしています。このコロナ禍で現在勤務している清恵会病院でも、新型コロナウイルス感染者の外来および入院診療に対応しています。大阪府の要請で第6波に向けて当院も新型コロナウイルス感染者の受け入れ病床も整えています。感染経路は違うにしても排菌している結核患者と同様に空調設備を整えた隔離した部屋での診療であり、患者や医療従事者の動線などにも留意することが重要で、本当に神経がすり減る思いです。コロナ禍を経験して、新型コロナウイルス患者の対応に当たり、改めて患者のトリアージとゾーニングの重要性が再認識されました。（コロナはまさしく災害と同じだと痛感しています。）コロナ感染が広がりまん延するまでは、大阪医科大学のスキー部のOBとして新入生歓送迎会や卒業生の追い出しコンパなどにも参加していましたが、現在は、開催もなく、紙面やメールでの挨拶になっています。学生の生活もクラブ活動含め感染の防御をしての対応となり、大変だと思います。特にクラブ活動では、日ごろの成果を示す大会も開催されず、日々のモチベーションを保つのが大変だと思います。先日、PBLの授業に赴きましたが、感染の収束に伴って、授業形態も対面とZoomでのハイブリッド形式になっており、少し以前の日常にもどりつつある感があります。

最後に仁泉会からのご依頼の内容は、新春の挨拶とのことでしたが、卒業30年を迎えて新たに構えるつもりはないのですが、できれば、緊急事態宣言が解除されるままであれば、2022年は、学41期生の同窓会を幹事のもと開催できればと思いつつ、筆をおきたいと思えます。

## 受章受賞報告

下記の先生の受章受賞が判明いたしました。

母校同窓会として慶事でありますので、ここにご報告させていただきます。

### 瑞宝双光章

学部13期 小笠原 博先生 学校保健功勞

学部21期 柴原 栄先生 学校保健功勞

柴原先生は私と同じ神戸出身で、神戸医師会の眼科医会会長にも就任されたことがあります。 安藤嗣彦（学20期）

### 厚生労働大臣表彰

学部19期 横山光昭先生 介護老人保健施設事業功勞者

## 受章・受賞の際は編集部にお知らせください

各地での喜びの受章・受賞等がございましたら、事務局あてに書面、新聞などをお送り下さい。FAX、メールでのお知らせも歓迎いたします。本誌にて広く紹介させていただきます。 編集係

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636  
e-mail / jimuj@jinsenkai.net

# 仁泉ひろば

jinsen-park

## 「長生き考」

文責／西村保 (学4期)

長生きのスタートは還暦である。

60才(還暦)十二支が60年で一巡し、自分の生まれた年に戻る。

70才(古稀)“人生七十古来稀なり”という漢詩にちなむ。

77才(喜寿)喜の草体は喜で、七十七と読まれる。

80才(傘寿)傘の略字は傘であり、これを八十に見立てる。

88才(米寿)八十八を組み立てると米になる。

90才(卒寿)卒の略字、卒にちなむ。

99才(白寿)百から一を引くと白になる。

100才(百賀)百寿以上のお祝い。

長生きは確かに目出たいが、必ずしも幸せとは限らない。老いてからの障害に認知症がある。認知症のメカニズムは完全には明らかにされていないが、ある程度は予防することは出来る。

認知症の予防10ヶ条

- (1) 塩分と動物性脂肪を控えめにしたバランスの良い食事を取る。
- (2) 適度の運動を行い足腰を丈夫にする。
- (3) 深酒とタバコを止めて規則正しい生活をする。
- (4) 生活習慣病(高血圧症、糖尿病など)の予防と早期発見して治療する。
- (5) 転倒に注意する。
- (6) 興味と好奇心を持つ。
- (7) 考えをまとめ、表現する習慣を持つ。
- (8) 細やかな気配りをした、良い付き合いをする。
- (9) 何時も若々しく、おしゃれ心を忘れないようにする。
- (10) くよくよしないで明るい気分で生活する。

尤もな事ばかりであるが、実際には難しいことが多い。

事務局編集係

## ご投稿のお願い

会員相互および母校とのコミュニケーションや情報交換の場として「仁泉会ニュース」を引き続き利用していただきたいと思います。会員の先生方より本誌に対する忌憚のないご意見をいただき、同窓会の活動をさらに充実させていきたいと考えています。

下記の要領にて、多くの会員皆様からの投稿をお願いします。

- 支部会、クラス会、趣味の集会などの案内や報告
- 「仁泉ひろば」のコーナー
- 研究論文の要約(以前に他誌に投稿された内容でも結構です)
- 随想、紀行、写真、絵画、俳句、短歌、川柳などの趣味や特技
- 紹介したい店、場所、物など
- 本誌に取り上げて欲しい話題  
字数には制限は設けません。葉書1枚、便箋1枚でも結構です。
- 広告に関して  
会員自身が出される広告は現在100字程度までは無料です。内容は、人材募集、開業場所の紹介、医院承継、ブライダル、趣味の発表会の案内などです。詳細については事務局までお問い合わせ下さい。  
(内容により有料の場合があります)

## 新聞切抜



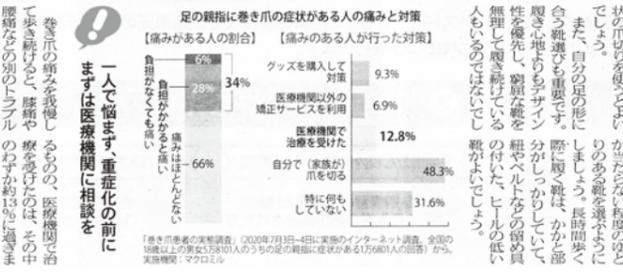
くろかわ皮膚科 (尼崎市南武庫之荘) 院長 黒川晃夫先生

### 爪がうまく切れない、歩くと痛い そんな巻き爪は早めに皮膚科へ

爪を元の形に近づける 矯正治療も可能

足の爪の正しい切り方

爪切りは刃がカーブしていない直線のもの



巻き爪のある人は、見た目だけでなく、爪の切りにくさや痛みに悩んでいるようです。皮膚科の医師、黒川晃夫先生に聞きました。

巻き爪は、爪の端が内側に向かって過度に巻き込まれる状態をいいます。巻き爪になると、爪の切りやすさや痛みだけでなく、足の親指に巻き爪がある人は、見た目だけでなく、爪の切りにくさや痛みに悩んでいるようです。皮膚科の医師、黒川晃夫先生に聞きました。

巻き爪の原因は、爪の端が内側に向かって過度に巻き込まれる状態をいいます。巻き爪になると、爪の切りやすさや痛みだけでなく、足の親指に巻き爪がある人は、見た目だけでなく、爪の切りにくさや痛みに悩んでいるようです。皮膚科の医師、黒川晃夫先生に聞きました。

2021年11月26日付けリビング阪神ひがしに黒川晃夫先生(学43期)の記事が掲載されました。

## 大阪医科薬科大学女性医師の会 令和4年度総会のお知らせ

大阪医科薬科大学女性医師の会会員の皆様へ  
あけましておめでとうございます  
令和3年はコロナに明け暮れた1年でしたが、皆様にはお元気に新年をお迎えでしょうか。  
本会は大阪医科大学を卒業または勤務された女性医師の会として活動しています。  
令和4年度の総会の予定が決定しましたので、お知らせさせていただきます。  
ぜひ、お時間が許されましたら、お気軽にご参加ください。  
年齢、専門科を超えて、旧交を温め、また、新しい友人を作りましょう。

と き：令和4年6月18日(土) 午後4時30分～午後8時(予定)  
と ころ：帝国ホテル大阪 22F「ペガサスの間」

詳細は仁泉会ニュース3月号でお知らせいたします。



代表世話人：福本敏子(学24期)

# 冊子 抜

## 【新年特集】

### 老年医学領域における新年の展望

名古屋大学大学院医学系研究科地域在宅医療学・老年科学 / 名古屋大学未来社会創造機構教授 葛谷 雅文 (第63回日本老年医学会学術集会会長)



#### はじめに

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。年頭に当たり老年医学領域における新年の展望、ならびに今年の6月に開催されます日本老年医学会学術集会の案内をさせていただきます。

昨年とはにもかかわらずCOVID-19に振り回された年でした。我々医療者にとっても感染症の脅威に今さらながらに驚かされました。欧米など爆発的なCOVID-19パンデミックにより医療崩壊が現実的に起こった国々も多く、救急医療の現場では高齢者がトリアージの対象とされるなどの我々にとってショッキングなニュースも流れていました。死亡者は圧倒的に高齢者が多く、高齢者の感染症に対する脆弱性を再確認させられました。

医療以外にも我々の日常行動もかなり変わりました。多くの学術集会は延期され、参加型からオンライン型に変更を余儀なくされました。同一施設内の会議や学生の講義もオンラインで実施し、臨床実習はしばらく実施できませんでした。

各学会、団体がこのCOVID-19に関する、またはコロナ禍における各種疾病対策に関して提言などを発表しておられますが、日本老年医学会もホームページ上に市民向け、居宅サービス（通所、短期入所）利用者・ご家族向けの注意喚起、介護老人保健施設における新型コロナウイルス感染症対応ガイド（全国老人保健施設協会との共同作成）、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行期にお

ドクターサロン65巻1月号 (12, 2020)

(35) 35

#### 新年の展望

いて高齢者が最善の医療およびケアを受けるための日本老年医学会からの提言— ACP実施のタイミングを考へる—、などを掲載しています (<https://www.jpgeriat-soc.or.jp/coronavirus/index.html>)。

今年の状況はなお不透明ですが、ワクチンの開発、治験などが進んでいるようですので、何とか一日も早いCOVID-19の沈静化を望むばかりです。

#### 新年の展望

超高齢社会に突入しているわが国は世界断トツの高齢化率で、第2位のイタリアを大きく引き離しています。この世界に求められる老年医学の課題は極めて多くありますが、その中でも健康寿命の延伸への対策は最重要課題と言えます。できるだけ自立した期間の延伸には成人時代からの悪性腫瘍、生活習慣病をはじめとする疾病の予防ならびに重症化予防、さらには高齢期に入ってから老年症候群の予防対策が重要です。この中には認知症、骨粗鬆症・転倒、フレイル、サルコペニア、ロコモなども含まれます。

昨年からは、後期高齢者健診が開始されていますが、COVID-19でそれどころではなくなりました。ただ、この健診はフレイル健診とも呼ばれているように、いち早くフレイル状態を察知するための重要な取り組みです。今後地域住民が一人でも多く健診を受け、フレイルに対する予防、介入のシステムが広がっていくことが、健康寿命の延伸の実現に向けて重要であります。

もう一つ、欧米のCOVID-19パンデミックの悪にも急性期医療の現場で問題になったadvance care planning (ACP：人生会議)にも少し言及したいと思います。厚生労働省も日本医師会もこのACPの周知に努力されていますが、なお認知が不十分だと思われます。米国のCOVID-19の医療にかかわった先生によると、米国でのCOVID-19パンデミックの際、医療現場でのトリアージや医療方針の決定にACPの情報はたいへん有効であったと聞いています。このことから、高齢者が自分の望む医療を受けることができるようにACPの実施が地域の医療現場では必要であると思います。

36 (36)

ドクターサロン65巻1月号 (12, 2020)

#### 老年医学

#### 第63回日本老年医学会学術集会

今年は、2年に一度の第63回日本老年医学会総会（会長：井口昭久、名古屋大学名誉教授、愛知淑徳大学教授、テーマ：成熟社会への課題—高齢者は幸せになったか—）が開催されます。第63回日本老年医学会学術集会はその分科会として、日本老年社会学会大会、日本基礎老化学会大会、日本老年歯科医学会学術大会、日本ケアマネジメント学会研究大会、日本老年看護学会学術集会（日本老年精神学会は合同シンポジウムのみ参加）と合同で同時期に名古屋で開催いたします（大会ホームページ：<https://site2.convention.co.jp/63jgs/>）。

当初名古屋国際会議場での開催を計画していましたが、COVID-19の状況の終息もなお不透明ということで、2021年6月11日(金)～27日(日)の期間オンライン開催としております。テーマは「高齢化最先進国の医療の在り方—老年医学から超高齢社会への提言—」としました。上記のように高齢化率断トツの日本の医療、特に高齢者医療の動向は世界の注目の的であり、日本がどのようにこの超高齢社会における高齢者医療を展開するか、サステナブルなシステムに変換していくかの問題は実は日本だけの問題ではなく、日本の後に続く国々の問題、また道標になっています。その意味でも日本老年医学会の役割は大きく、エビデンスに基づいた研究成果を世の中に還元していく必要があります。その思いをテーマといたしました。

さて、まだ学術集会の詳細が決まっておりますが、以下のように教育講演としては22テーマ、シンポジウムは24テーマを計画しています。さらには、日本老年医学会の各種委員会企画ならびに他学会とのジョイントシンポジウムとして7企画、学会長特別企画を3つ考えています。

ドクターサロン65巻1月号 (12, 2020)

(37) 37

# 冊子 抜

## 大学連携コラム

### ドクターが診る 健康相談室

Vol.3

## 新型コロナで 口の中や首のしこりを見逃していませんか？



大阪医科薬科大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 河田 了さん

私は、現在「耳鼻咽喉科・頭頸部外科※」という診療科に所属しています。みなさんには、「頭頸部外科」という言葉は、まだ聞きなれないかもしれませんが、鎖骨より上で、脳と眼を除いた部位に関する外科のことで、主に腫瘍（しゅよう）体の表面や体の中にできる細胞の（たまり）疾患が対象となります。病名でいえば、例えば、□腔癌（舌癌）、咽頭癌、喉頭癌、甲状腺癌などの診療を専門としています。そのどや首などで気になりますしこりや痛みがあったときは、「頭頸部外科」を標榜する医療機関を受診してください。

□やのど、首の腫瘍（しゅよう）は、自分の目で見て、あるいは手で触って分かることがあります。それが炎症か腫瘍か、腫瘍なら良性か悪性（がん）かの診断は、専門医であれば、視診や触診など、他の領域に比べて患者さんの負担にならない検査で判断できる場合も少なくありません。受診控えて治療の開始が遅れると、重症化につながります。迷わず、ぜひ早めに受診してください。

※当該病院における「頭頸部外科」は内部呼称になります

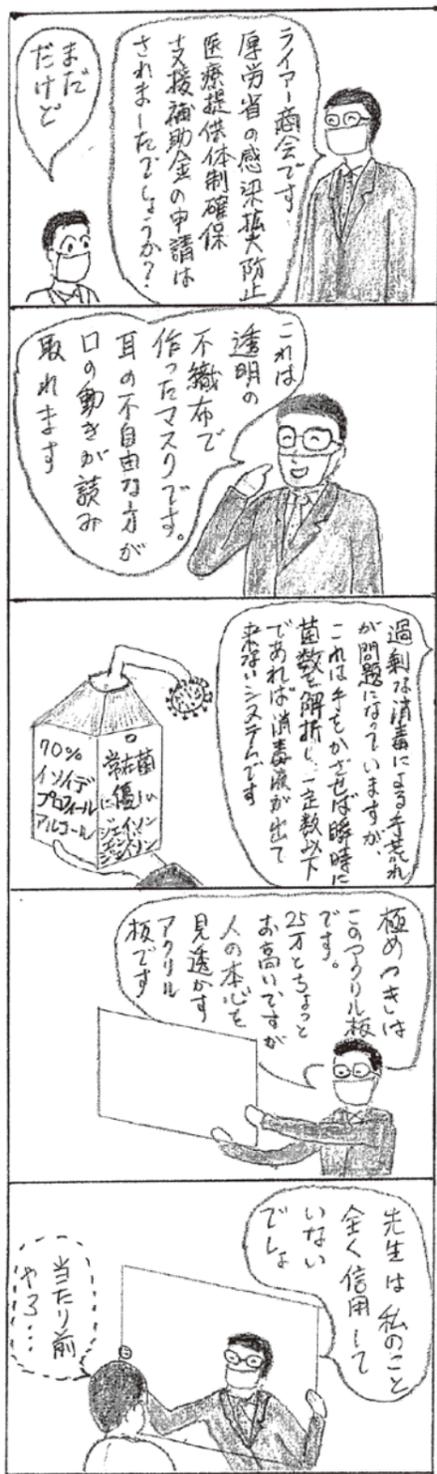
「たかつき DAYS（広報たかつき）令和3年12月号」に大阪医科薬科大学病院 河田 了先生（学33期）の記事が掲載されました。

「ドクターサロン 65 巻 1 号（令和 3 年 12 月号）」に葛谷雅文先生（学 32 期）の記事が掲載されました。

# まんが53

長崎チャンポン太 (学31期)

## 補助金便乗セールス



## キリン一番



## 編集部より

### 会費納入のお願い

年会費  
 令和3年度 10,000円  
 令和2年度 10,000円  
 令和元年度 10,000円  
 納入のご協力をよろしくお願い致します。  
 事務局 会計係

### 原稿募集のお知らせ

仁泉会ニュースの原稿を募集しております。日々の診療で感じられた事、研究報告、趣味のお話やクラス会や支部会のご報告なんでも結構です。ご投稿お待ちしております。

●53巻2号 (令和4年3月1日発行)  
 締切 令和4年1月末日

●53巻3号 (令和4年5月1日発行)  
 締切 令和4年3月末日

●送付先：仁泉会事務局 〒569-8686 高槻市大学町 2-7  
 E-mail: jimujinsenkai.net FAX:072-682-6636

### 編集後記

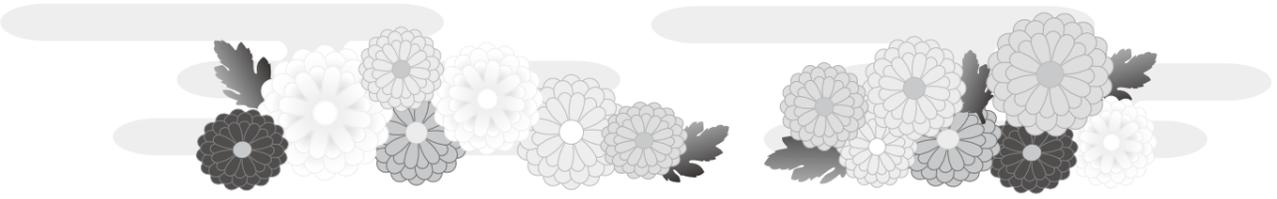
皆様あけましておめでとうございます。どのような新年をお迎えになられたでしょうか。

今回の仁泉会ニュースには、安藤理事長をはじめ各位からの新春メッセージを掲載いたしました。COVID-19に言及されている先生も多くおられます。足かけ3年に及ぶコロナ禍に社会も疲弊しています。しかし新春です。のでなにか明るい話題をと思っておりますと、学校法人理事長の植木實先生の記事がありました。附属病院では病院新本館 A 棟が完成し、7月開院の予定です。また母校東側に位置する安満遺跡公園隣接の土地も取

得し、薬学部のあらたな拠点になるとのことです。その他の施設も移転、建て替えが予定されるなど、目白押し。の計画が紹介されています。小筆が在籍、勤務していたところは景色が一変してしまいそうです。

ますます発展してゆく母校を本当に心強く思います。仁泉会もその発展に少しでもお役にたてるよう、会員先生方のご協力をいただきながら活動してまいります。仁泉会ニュースも折々の話題も交えながら発行してまいります。ぜひご愛読くださいますようお願い申し上げます。

(治)



## 支部会・クラス会開催にあたって

支部会・クラス会開催にあたり、ご案内発送や出欠の集計等を仁泉会事務局にてお手伝いさせていただきます。お気軽にご相談ください。

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636  
 e-mail / jimujinsenkai.net



ハードルをジャンプ!!

地元で 50年

薬袋・診察券・カルテなどの

## 医療印刷

タツミ印刷株式会社

お気軽にご相談下さい。

池田・高槻

tel: 072-761-8434

# 原稿募集

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、  
 予定されているクラス会や支部会などが中止若しくは  
 延期を余儀なくされ、原稿が大幅に減っております。  
 ご多忙とは存じますがテーマ、題材を問わず広く原稿を募集いたします。  
 ご寄稿お待ちしております。

例：新型コロナウイルス感染症に対する日々の取組み、診察対応など近況報告等

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636

e-mail / jimu@jinsenkai.net